

いのち・くらし・へいわ

みずた ゆたか

活動レポート

発行元

水田豊後援会

府中市上下町深江940-1

TEL 62-4575

FAX 62-4404

5月29日の上下町民会館での市政報告会



枠配分方式を追求

枠配分方式とは、厳しい財政にある府中市の予算を編成する上で、今年度予算から採用されている方式です。使えるお金の上限を決めた上で各課各部署で予算の決め方を考えるというものです。上限が決まっているので、すから必要な分野に重点的に配分すれば、他の分野の予算は削らざるを得なくなります。

メリハリのある予算と、いいながら、むりやり20年度予算の180億円に圧縮するための削減ありきの方式ではないかと私は考えています。

そこで6月議会の一般質問でこの点を質しました。門田総務部長は次のように答弁しました。

「ただ単に財政難を乗り切るというためだけではなく、行政サービスの向上につながるものでなければなりません。今後

公債費等の増大が予想されるなど厳しい財政運営の中、採用したものであって、その目的は市民ニーズにあった事業の新規立案や事業の廃止、職員の自主性の確保、コスト意識の向上、また効率的効果的行政運営などを目標として導入したものです。予算編成を通じて、事業の必要性や優先度を職員自らが考えることになり、またコスト意識の向上につながったと評価をしています。」

官僚答弁を憂う

まことに立派な答弁です。しかし、「行政サービスの向上につながる」といいながら現実には福祉タクシー、おでかけタクシー、入浴サービスが削られています。言うこととやることが違う。

官僚市長のもとで、はえぬきの部長たちにも官僚答弁がはびこることを憂慮します。

